

かわぐち

2003. 1月号 No.352

今月号の主な内容

- 年頭のごあいさつ……………2~3
 - 合併意向調査の結果をお知らせします…4~7
 - 今年は未年です……………8~9
 - 固定資産税評価替のお知らせ……………11
 - 総合学習の成果を発表……………12~15
 - 雪洞火ぼたる祭開催のお知らせ……………16
- ほか

あけまして おめでとうございます



かわぐち歴史探訪 ⑩ 長者の滝



▲写真は天納の長者の滝と戊辰戦争で使われた弾丸

天納の石田川沿いに、長者の滝と言われる滝がある。その長者というのは朝日長者だとかつて武道窪の故阿部幸吉さんからお聞きしたことがあった。石田川は硬い岩盤の露出した所が多い。戊辰戦争で官軍と会津軍がこの川を挟んで鉄砲の撃ち合いをしたと言われた場所でもある。

この辺りの旧三国街道はまだ確定されていなかったので確かなことは判らないが、明治18年、七曲がり開削以前の参勤交替の道は長者の滝の橋（相川橋）を通っていたらしい。2メートルくらいの小さな橋である。

この橋を渡れば、すぐに石田川を渡って木津へ上がることもできる。橋

本屋さんがここにあったと伝えられている場所である。

朝日長者とはどのような長者なのだろうか。言い伝えによれば、六日市村の大倉氏で、滝の上の台地の一角に住んでいたという。一説には製鉄に関係して財をなした者という。さらに、石田川を遡ると武道窪の石動（いするぎ）神社がある。石動神社の祭神の一つは天日一根の命だという。

北魚沼郡史によれば、石動五社の祭神がそれぞれ異なる中にある。天の目一個の命を祭るところがある。たまたら製鉄をする過程で、炉を片目で覗くためにこの神様が片目だと言われている。長者の滝は今、水量豊かだ。

あとがき

▼新年あけましておめでとうございませう。今年も広報かわぐちのご愛読よろしくお願いたします。▼1月号では、毎年恒例の干支を迎えられる方々から新年の抱負を語っていただいております。「自分の顔や文章が広報に掲載されるのはちよつと…」と敬遠されがちなのこのコーナーではありますが、この方から「こんな機会がなかったら、人生を振り返ることもなかったかもしれない。ありがとう。」とお礼を言われて、私にとってはとても思い入れの詰まったコーナーとなりました。登場してくださった皆さん、どうもありがとうございます。▼さて、今年も広報担当が町中のいたる所に出没し、皆さまに無理なお願いをすることも多々あるとは思いますが、何卒よろしくお願いたします！



年頭のごあいさつ

川口町長 星野和久

新年あけましておめでとうございませす。

町民の皆様には、平成十五年の輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申しあげますとともに、平素より町政に對しまして温かいご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

年頭にあたり、心をあらたにして川口町の発展のため、心豊かな住みよいまちづくりの全力を傾けてまいりますので、重ねて町民の皆様の温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

振り返ってみますと、昨年は日本と朝鮮半島をめぐるニュースが多い年でありました。特に、サッカー・ワールドカップの日韓共同開催を契機に日本と韓国の友好が一層進展することを期待するものであります。

また、小泉総理の北朝鮮訪問により、日朝国交正常化交渉は、いわゆる拉致問題からこう着状態に陥っており、政府はこれが再開できるよう粘り強く交渉しているところであり、いずれにしましても、「拉致問題」の早い解決を心から願う次第であります。

こうした社会情勢のなかでありましたが、当町におきましてはお蔭様で大きな事件事故もなく、安心して越年したところであります。町政の執行につきましては、町民の皆様のご協力により、当初計画しております事業はほぼ予定どおり進展しております。

主に面積配分する仕組みにすることとなっております。これにより、一層稲作農家への負担が大きくなることも懸念されますが、町農業の変革に向けた再編整備に努力してまいりますので、今後とも農家の皆様のご理解とご協力を強くお願いするものであります。

次に県営事業として要望しております「農免農道整備事業」につきましては、本年度は用地補償をすべて完了し、右岸の橋台工事が発注済となっております。牛ヶ島地内において実施しております「担い手育成基盤整備事業」の圃場整備は既に完了しており、本年度は生活環境基盤整備の集落道の測量設計が実施され、用地買収に着手しております。

「中山間地域等直接支払制度」におきましては、これまで十九団地が共同取組によって農地保全が進められており、皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

町民総参加による二十一世紀における、ゆとりと潤いのある生活が実感できる豊かな地域社会を構築するために組織された「二十一世紀のまちづくり戦略会議」は、積極的な活動を展開しているところであり、各部会から寄せられました事項は貴重な提案として、今後の町政の展開に役立てて行きたいと考えております。

なお、この「二十一世紀のまちづくり戦略会議」や「生涯学習事業」を始めとして、若い人達がまちづくりや町政に参加し意見を述べるのできる仕組みが

その主なものをご報告させていただきます。

まず、「川口橋架替事業」であります。東川口地区の用地買収につきましては、今後も引き続き地権者のご理解が得られるよう、誠意をもって交渉に当たる所存であります。なお工事につきましては、本年東川口地区の橋梁取付部の着工が予定されておりますので、特段のご理解をお願いするものであります。

「まちづくり総合支援事業」につきましては、東川口地区の「流雪溝整備工事」に着手しており、引き続き川岸地区の「雪用水施設」につきましても国土交通省との占用協議が完了し、工事発注の予定であります。「東川口環状線」につきましても測量設計を行い、本年の工事発注に向けて準備を進めているところであります。

次に「魚野川水辺プラザ整備事業」であります。水辺の魅力を最大限に活かして、川を地域交流の拠点とし川に学ぶ体験の場として活用しようと、国土交通省と町が一体となって取り組んでおります。この事業は、地域住民も共に参画し計画の立案や管理運営の責任を担っていくものであります。国土交通省は魚野川左岸と相川川合流点に「せせらぎ水路」を既に工事発注しており、町は遊歩道の工事発注に向けて準備を進めているところであります。

次に、川口町が川口らしく川口であり続けるためにも、農業の振興が最も優先多くありますので、大いに自己を磨き高めてさまざまな分野で「町のリーダー」として育ってほしいと念願いたしております。

「子育て支援対策」におきましては、第三子以降を支給対象とした「健やか誕生祝い金制度」の創設をはじめ、幼児医療費助成について「四歳未満に拡大」や「所得制限の撤廃」、更に「早朝・延長保育」の実施、「一時保育」及び「未満児保育」についても随時入園することのできる体制を実施するとともに、「放課後児童ふれあい広場」の充実強化を図り、昨年策定しました「エンゼルプラン」に基づきましてより一層児童の健全育成と児童福祉の増進に努めてまいります。

次に、川口診療所の医師として、三十二年間町医療に尽くされました佐藤靖邦先生が昨年末で閉院され、本年一月からは新たに内田和宏先生が開業をされます。佐藤先生には長年にわたる地域医療に対するご貢献に深く感謝申し上げます。内田先生には、これまでの経験を生かし、町民への医療と健康づくりのため、ご尽力をいただくよう大いに期待をしております。

「公共下水道事業」につきましては、工事が順調に進められてきており、本年度中山地区、天納地区の工事が進められており、本年には供用開始の運びとなっております。これにより認可区域の全域が供用開始されることとなり、快適な居住環境の整備が大きく前進いたします。

して取り組まなければならない課題であり、不退転の決意をもって「株式会社えちご川口農業振興公社」を設立したところであります。これによりまして、農業が基幹産業として誇りある職業として成り立つために農村の活性化を図ることが大切と考えます。

また、本年度竣工いたします「農村体験宿泊施設」いわゆる「古民家」は地域の食材を取り入れた「地産地消」による川口町の伝統的食文化を掘り起こし、提供するによりまして、都市と農村との交流促進が一層図られるものと思っております。

「総合交流拠点施設建設工事」いわゆる「健康増進施設本館部分」につきましては、現在躯体工事が予定どおり順調に進んでおります。この「本館棟」が完成いたしますと、健康増進施設の「核」として、一層充実することとなります。

「水田農業確立対策」につきましては、昨年も全国的な豊作により、国は転作面積の配分を、過去最大規模の百六万ヘクタールとすることを発表しております。また同時に国がコメ生産調整（減反）面積を配分している現在の需給調整システムを現実的に廃止し、平成二十年までに農業者が主体的に配分する体制に移行するとしており、これによりまして生産目標数量は、国が情報提供する需給情報策定、行政と農業者・農業者団体が生産数量方式で当面の需給調整を行い、農業者に対しては地域ごとの実態に合わせ自

なお、「市町村合併」につきましては、川口町の将来をも左右する大きな問題でありますことから慎重な対応をしてきたところですが、昨年町内の全世帯一五六三世帯を対象に実施いたしました住民意向調査では、一〇三三世帯からご回答をいただき回収率は七十六・九七％と非常に高い回収率でございました。若い人を始め多くの町民の皆様から貴重なご意見を寄せていただいておりますが、調査結果は、本誌にその概要を掲載してございますので、ご覧いただきたいと思っております。

この意向調査の結果と合わせて、町議会、地域懇談会におけるご意見などを最大限尊重いたしまして、早急に合併問題について決定をして参りたいと思っております。

以上、町が現在取り組んでいる主要事業の進捗状況の概要を述べさせていただきました。

私は、この激動の時代における大きな課題を勇氣と情熱をもって克服しながら、「町民と共に歩む二十一世紀のまちづくり」を基本に、「町民総参加による生活と文化を大切にすまちづくり」に向けて、全力を尽くす決意であります。

どうか町民の皆様におかれましては、旧に倍しましてご協力、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。本年も町民の皆様が、健康で幸多い年でありませう心から祈念申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。

市町村合併に関する住民意向調査

集計結果をお知らせします



意向調査に向け実施された合併懇談会

11月に実施しました「市町村合併に関する住民意向調査」につきまして、ご協力いただきありがとうございました。皆さんからご回答いただきましたアンケートの集計がまとまりましたので市町村合併に関する各意見と共に紹介いたします。



国では、地方分権の推進、広がる住民の日常生活圏、少子・高齢化の進行と人口の減少、多様化する住民ニーズ、悪化する国、地方の財政状況などを理由に、市町村合併が必要であるとしており、地方交付税や地方債の特例などの優遇措置を定めた「市町村合併の特例に関する法律」等の期限（平成17年3月31日）までの合併を奨励しています。一方県は、昨年2月に公表した「新潟県市町村合併促進要綱」の中で、県内山市町村の合併パターンをまとめ、川口町と小千谷市との合併を進めてはどうかという案を示しました。

今回の意向調査は、県が示した小千谷市との合併パターンを主体に市町村合併に関する町民の皆さんの意向を把握するため全世帯を対象に実施したものです。

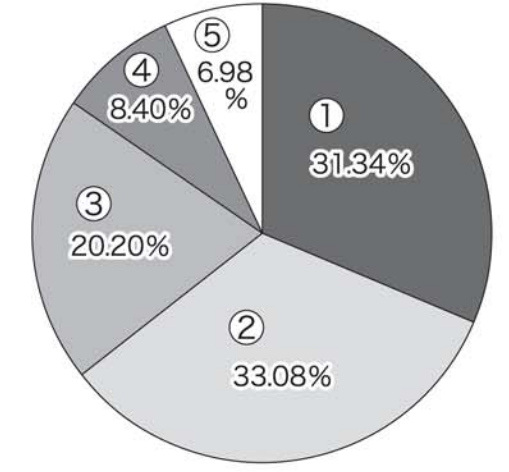
市町村合併に関する住民意識調査

回答結果

配布世帯数 1,563 世帯
回収世帯数 1,203 世帯
回収率 76.97%

問1 新潟県が示した小千谷市との合併パターンについて、今後川口町はどうしたら良いと考えますか？

項	目	回答数	回答率
①	市町村合併の特例に関する法律の期限(H 17. 3. 31)までに合併した方がよい	377	31.34%
②	合併するとしても法律の期限までにする必要はない	398	33.08%
③	合併しない方がよい	243	20.20%
④	わからない	101	8.40%
⑤	その他（無回答、複数回答）	84	6.98%



平成17年3月31日までに合併した方がよい

◆今後、就労人口の減少、高齢化層の増大、地方在住人口の減等、町としての機能が損なわれる事態が近づいていると感じます。合併自体は実施する方向で賛成です。今後は合併後のあり方を提案した方がよいのではと考えます。最初から合併ありきの議論ではありませんのでご了承ください。住む人たちが幸せになることが基本です。充足し満足ではありませんが、暮らしやすい生活空間のある住むところとしたいです。

◆編入合併(吸収合併)といっても、川口町の特性が少しでも活かされるよう対等合併に近いような要望を持って合併してほしい。

◆川口町と小千谷市は、病院、消防、就職面、買い物等日常生活が近く関連しているの、他町村との合併より川口、小千谷との合併に合意します。広域合併を問われている現在人口6千人足らずの川口町だけ反対しても、今後の住

民生活に色々不利ができるのではないかと。大規模になると末端(中山間地農家)まで行政が行き届かなくなるのではと不安もあるが、中心地域との格差のない行政を望み、法律の期限までに合併した方がよいのではないかと。

◆合併してもしなくても、どちらにもメリット、デメリットがあるが、財政面を考えると優遇措置を受けられるうちに合併すべきだと思う。「合併すると、小規模集落へのサービスが低下するので、どこかから交付金が減少していくようなのであれば、今の財政状況で今以上の行政サービスや町の活性化は望めないのではないかとと思う。」

◆長岡広域圏との関連も考えれば、小千谷市・川口町の合併のみでは、行政の効率化や経費節減は見込めないと思うし、国が考えるような都市規模にも満たない。小千谷市の意向や更に拡大した地域との協調の元に、より規模(人口)

の大きな合併が理想的であり、法的な期限内に進められることを希望している。

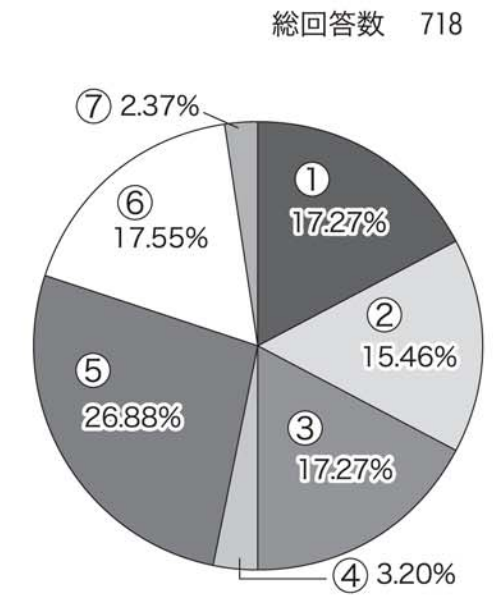
【若者の意見】

◆家族から、合併について聞きました。私は合併した方がいいと思います。これから経済的に川口町だけではきつと行き詰まってしまうと思います。それは人口の減少、世帯数の減少、いろんな面から厳しくなってくると思うので、早く小千谷市と合併し、川口町と小千谷市で協力し合って経済を進めていけばいいと思います。また、お互い良い所を話し合っていけば、よりよい川口町、小千谷市になると思います。

◆若者が21世紀を生きて行くには、自治体の基盤整備が欠かせないことであり、安心して毎日に向かって行けるよう、早期合併を要望します。長岡圏の方がピタシと考えるますが、現段階では小千谷圏となっておりますが、これでも結構だと思えます。乗り遅れないようにお願いいたします。

問2 問1で①(17年3月までに合併した方がよい)と答えた方にお聞きします。「法律の期限までに合併したほうがよい」と答えた理由を次の中から2つまでお選びください。

項	目	回答数	回答率
①	地方分権に対応した行財政基盤を強化する必要があるから	124	17.27%
②	より多様化・高度化した行政サービスを提供してもらいたいから	111	15.46%
③	広域化した日常生活圏に合わせた行政組織が必要だと思うから	124	17.27%
④	広域的な地域イメージの向上が図られるから	23	3.20%
⑤	行政運営の効率化、経費の節減が図られるから	193	26.88%
⑥	国や県の財政支援が受けられるから	126	17.55%
⑦	その他	17	2.37%



合併するとしても法律の期限までにする必要はない

◆中心地域が大きくなると山間地の小さな集落が必ずさびれてしまう。川口町として自信を持って単独行政を保ってほしい。どうしても合併をするのであれば北魚沼に合併すべき。

◆世の中の流れから合併は必要だが、どうせ合併するならば大きく合併するのが望ましい。平成17年を必要以上に意識して早急に結論を出す事には反対。

◆県のバターンでは合併後の規模が小さく、メリットが少ない。広域圏の活用を重視すべきではないか。長岡でなく小千谷近隣を選んだ理由は農村の環境が川口町と同じであり、中心市となる小千谷市を囲んだ形で行政サービスや環境整備がバランス良くいくような気がする。

◆合併は急がないでほしい。行政機関、住民でもっと議論した方がよい。吸収合併ではなく、現在の川口町が失われたい合併であるべきだ。行政

や生活環境が悪化しないような合併であってほしい。住民のための住民参加の行政が可能か？

◆合併に伴う個人の生活水準の向上は見込めないと思う。「町十個人」の活性化＝合併ではないと思う。十分な、慎重な議論の上、理解を得た合併でなければうまくいかないのでは。

◆行政面、経済面では今の段階では、小千谷方向であるが、合併をしてこれから良い町づくりには、北魚沼の方が地域性が合うように思う。

【若者の意見】
◆将来合併はあるとしても今は望まない。合併してメリットは何なのかもう少し考えてみたい。メリットの方が先行しすぐに賛成できずにいる。

◆世の中の流れで合併はしなければならぬと思う。しかし、合併したことによってこれ以上過疎化が進んだり、不便になっては困る。その辺がきちんとクリアされれば合併しても何の問題のないと思う。将来自分達でどれほどの税負担がかかってくるのかと

ても不安だし、小さい町のままではどのような点からも不利のような気がする。小千谷市だけでなく現在の長岡広域の13市町村が合併するのが望ましいと思う。(小千谷市だけとの合併だと人口も少なすぎるしメリットもないと思う。)

◆合併で大きく生活が変わるとは思えない。今の行政サービスの水準より著しく低下するようなら反対だが、そんなことはないと思っています。川口町に対するアイデンティティは行政区域の変化の問題ではなく、そこに住む我々住民が地域で守り続ける意思の問題だと考えます。とにかく、明朗、透明な話し合いで結論を出して欲しいです。

合併する必要はない

◆具体的に合併のメリット、メリットを分析することと住民本位に考えることが大切と思う。今まで育てた住民の意識や地域の連帯感が合併することによってどう変化するか。今でも雇用についても他の市町村に頼っている状況

の中、合併することによって益々労働力の移動と、地域の住民の減少の加速が進むものと思われる。合併後も川口の地域が特色を持って生き生きとした地域で残れることを考えないと吸収されるだけではないかと感じる。合併しないことによるメリットより合併することのメリットの方が大きい(多い)と思う。多少のガマン(負担)が出てきても、様々な工夫をしてやっていけると思う。①サービスの低下や②伝統・文化と独自性が薄れるようなことにならないことを望む。

◆メリット、デメリットだけの合併では、結果として人間的なつながりや昔からの伝統、文化等が失われてしまうのではないかと。合併しなくても、川口町独自の自主努力で職員数や議員数の削減等の合理化は出来るのではないかと。◆合併は国の指導で行うことであって、町民が希望することではない。小さな行政であっても、住民の声が直接行政窓口へ通ずることは非常に良いことだと思います。中心部よりはずれざるが町民にとって過

疎が進むばかり、町の発展は考えられない。出来るなら今のままで住民の意志疎通がある我が町であってほしい。

◆現在合併しなくても何とかやっていけるのであれば、無理に合併しないで現状維持が望ましい。合併する必要がなくなるようになった時点で合併を考えればよいのではないかと。

◆対等な関係の合併ならまだしも吸収合併のような形になるのは、川口町らしさが失われるので。貧しくても独自性を出して町政運営をしてほしい。(ムダはどこか、財政面の検討をして)

◆これから益々財源確保等厳しい情勢が強まっていくと思うが、川口町独自の特色、文化を守り、貫き通して欲しい。川口町民としてこれからも、また次世代の子供たちも川口町民として生活していきたいし、いかせたいと思う。

【若者の意見】
◆川口町は少子高齢化が進みますが、合併したら福祉サービスなどが、今よりも受けにくくなるのではないかと不安である。

◆重要なことなのでもう少し考える時間がほしい。こういう問題を上から法律で押しつけるのは疑問。ただし、合併するとすれば小千谷市以外には考えられない。

◆合併した方が良いという点もたくさんあると思うけど、役場が遠くなったりして不便になることも色々あると思う。どっちが良いとか悪いとかはわからないけど、結果的に、「これで良かった」と言えるようになれば良いと思う。

【若者の意見】
◆小千谷市とはあくまでも通過点。長岡広域を十分に視野に入れて、本気で取り組むべきと思う。独自性と孤立とは別だ。

わからない・その他

問4 問1で③(合併しない方がよい)と答えた方にお聞きします。「合併しない方がよい」と答えた理由を次の中から2つまでお選びください。

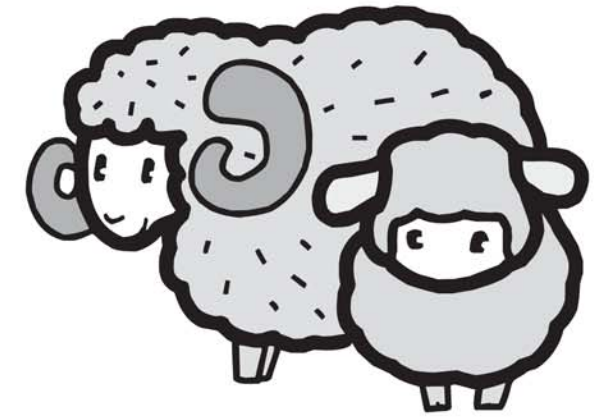
項	目	回答数	回答率
①	合併により、中心地域に比べ周辺地域が衰退するなど格差が生ずるから	136	19.43%
②	合併すると役場が遠くなり、不便になるから	84	12.00%
③	行政の区域が広くなり、行き届いた行政サービスが受けられなくなるから	138	19.71%
④	議員数が減少するなど、地域住民の意思が行政に反映されにくくなるから	34	4.86%
⑤	歴史・文化・伝統など地域の特色や愛郷心が薄れ、地域が衰退してしまうおそれがあるから	53	7.57%
⑥	地方分権型社会実現のための「みんなで参加しみんなでつく町」という町づくりの基本的概念が薄れ、連帯感が失われて、個性ある「まちづくり」が難しくなると思われるから	94	13.43%
⑦	合併により「川口町」がなくなることは、自己決定、自己責任の地方自治の主体の権利(核)を失うことになるから	70	10.00%
⑧	合併は、国の財政問題に起因するもので、町としては合併する理由がないから	83	11.86%
⑨	その他	8	1.14%

問3 問1で②(合併するとしても法律の期限までにする必要はない)と答えた方にお聞きします。「合併するとしても法律の期限までにする必要はない」と答えた理由を次の中から2つまでお選びください。

項	目	回答数	回答率
①	合併してもメリットはない、時期尚早である	66	9.19%
②	小千谷市との合併は、「編入合併」(いわゆる吸収合併)であり、吸収合併でない合併を望む	115	16.02%
③	住民の関心度が低いので、もっと研究、議論を重ねてからでも遅くない	144	20.06%
④	現状維持が可能であれば合併を急ぐ必要はない	207	28.83%
⑤	小千谷市との合併だけでなく、他の市町村との合併の方向も考えるべきだ	174	24.23%
	ア. 北魚沼6町村	(34)	—
	イ. 長岡市	(56)	—
	ウ. 小千谷及びその近隣町村	(47)	—
⑥	その他	12	1.67%

今年^{ひつじ}は未

年です



過去の未年はどんな年だったかな？

- 昭和6年…満州事変勃発
- 昭和18年…日本軍ガダルカナル島から撤退、山本五十六長官戦死
- 昭和30年…ワルシャワ条約調印、自由民主党結成、神武景気
- 昭和42年…第3次中東戦争勃発、資本取引自由化
- 昭和54年…サッチャー女史が初の女性首相に、インベーダーゲーム流行
- 平成3年…湾岸戦争勃発、ドラマ「101回目のプロポーズ」が大ヒット

新年あけましておめでとうございます。
 昨年は皆さんにとって、どのような1年だったでしょうか？良かった人もあんまりだった人も、2003年に寄せる思いは人それぞれ…。
 さて、毎年恒例となりました、今年干支を迎えられた12人の方々から新年の抱負を語っていただきました。

昭和30年生まれ

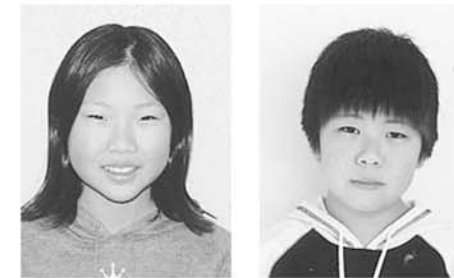


大淵 昇さん (前原) 星野 春子さん (木沢)

雪の多い新潟県に来てから早20年以上が過ぎてしまいました。日々平凡な時を過ごしてきましたが、これまで大病もなく過ごしてこれたのは木沢のきれいな空気とおいしい水のおかげでしょうか？これからも小さな悩み事は多々あると思いますが、景色のきれいな木沢で穏やかな日々を過ごせればと思います。

近年の私は、いろんな人と出会い、関わりあいを持つことで、たくさん得るものがありました。はがき1枚13万円の書道家、犬ぞりの冒険家、スイス在住バイオリン奏者、元早稲田大学競争部部長、風来のいささかふうさん、92歳のしつかりおばあちゃん…。今年もまた新たな出会いを期待し、前向きで過ごしたいですね。

平成3年生まれ



小見 美咲さん (大形) 阿部 貴義さん (武道窪)

ほくは今年、泉水小学校の最高学年になります。6年生は生徒のリーダーなのでがんばっていきたいと思います。特に親ゼン陸上大会や水泳大会では、いっぱい練習をして上位をめざしたいです。学習では漢字をていねいに書いて、学校で取り組んでいる「学年×10分間」机に向かって毎日勉強する習慣を続けたいです。

私が今年がんばっていききたいと思うことは中学校のことです。中学生になると部活や勉強が大変になるので、今から復習をしっかりしたいと思います。特に6年生でやっている自主学習の「がんばりま帳」を大切にやっていきたいと思っています。中学校に向けていいスタートをきりたいです。

昭和18年生まれ



星 ケイ子さん (川口3) 星野 六雄さん (竹田)

今年で満60歳。昔は中学校を終わると集団就職の時代でした。大工に弟子入りをして早いもので45年、定年退職はないけれど、若い気持ちで働けるうちは働きたい。これからは夢を見、夢を追い、仕事仕事ではなく、仕事の合間に趣味を楽しみ、健康に気を付けてがんばりたいと思います。人生折り返し地点、出発進行！

川口町に移り住んで24年、私も還暦を迎え、改めて年月の経つ早さを感じるこの頃です。毎日の変わらない生活の中で思う事は、家族が健康で明るく過ごせることが何よりも幸せだということ。最近では環境破壊や汚染の問題が気になりますが、住民の一人として、住みよい川口町になるよう努めていきたいと思っています。

昭和54年生まれ



小林 正樹さん (川口4) 角張 恵美さん (岩出原)

早いもので、私が社会に出てから5年が経ちますが、まだまだ他人に頼っている面がたくさんあります。今年は少しでも自立できるように何事にも全力で取り組みたいと思っています。また、昨年は体調を崩し、大勢の人に心配や迷惑をかけた年だったので、まずは自己管理をしっかりとして充実した1年にしたいと思っています。

健康第一。今年の目標です。一昨年に肝臓を患い入院生活を余儀なくされ、健康であることの大切さ、素晴らしさを実感しました。今年は大きなケガや病気のないように過ごしたいです。健康であること、それから仕事や大好きなサッカーを一生懸命がんばっていききたいです。

昭和6年生まれ



井口 正憲さん (川口2) 星野 幸枝さん (木沢)

木沢に生まれ育って70年余り、今思えば、あつと言う間に過ぎたような気がします。現在は、地区の友だちと折り紙教室に参加したり、家で野菜づくりをするのが最高の楽しみ。今年も「よしみち市場」に「ぎしりの会」や町の皆さんの協力をいただきながら、自慢の野菜を出していきたいと思っています。

思い起こせば、田麦山農協等で養蚕の技術指導員等に32年、高速度路の料金所で8年、測量の仕事を9年とよく今まで大病もせず働いてこれたと思う。これも家族のおかげと思感謝している。新年の抱負というと大げさですが、これからはドライブや旅行を楽しみながら、毎日を健康に過ごしていきたいと考えています。

昭和42年生まれ



網 恵美子さん (川岸) 丸山強一郎さん (長坂)

今年未年、私も3回目の年男を迎えます。特に新たな気持ちで何かにチャレンジするとか考えていませんが、今年も健康で明るく過ごしていきたいと思っています。長引く景気低迷と経済のデフレスパイラル化により生活環境においてこれからどうなってしまうのか非常に不安ではありますが、精一杯楽しく過ごしたいものです。

川口に嫁ぎ早12年が経ち、3回目の干支の年となりました。現在は育児も少し手が離れ、仕事を持つようになり、毎日が忙しく過ぎて行きます。改めて新年の抱負と言う程ではありませんが、日々学ぶ事の多くある中、前向きな姿勢を忘れず、子どもの成長と共に、親として人として成長して行けたらと思うこの頃です。



ゆめありくんの

国民年金講座

国民年金保険料の納め忘れはありませんか？

みなさん、国民年金保険料の納め忘れはありませんか？

このようなことがないように、国民年金保険料の納付は便利で確実な口座振替をお勧めします。

口座振替の手続きは通帳・銀行届出印をお持ちの上、金融機関又は社会保険事務所でお願います。

確定申告などの際には納めた国民年金保険料は忘れずに申告しましょう

国民年金保険料は全額社会保険料

控除を受けられます。本人はもちろんのこと、家族の分として納めた保険料も対象となります。

控除の対象となる保険料は次のとおりで平成14年1月から12月までの1年間に納めた全額です。

- 毎月納めた保険料
前納として一括で納めた保険料
過去の未納分を納めた保険料
免除期間を納めた追納保険料

※領収証書は再発行できません。

また、「納入証明書」は社会保険事務所から送付されませんので、納めた保険料の領収証書は大切に保管しましょう。

※口座振替されている方には、翌月の口座振替のお知らせと一緒に領収済額の通知書をお送りしています。(通知書をなくされた場合でも、預金通帳で納付額を確認することもできます。)

※申告の際は、領収証書や領収済額通知書等の添付の必要はありませんが、これらを確認のうえ正確な金額を申告しましょう。
※万が一、領収証書をなくした場合で納付額を確認できない場合は、長岡社会保険事務所にお問い合わせください。

健康な部分でもっと普通にいきなさい！

心の講演会を開催

12月17日、生涯学習センターにおいて、川口町精神障害者家族会(ひまわり会)と生活福祉課の共催で心の講演会が行われました。



高橋邦明先生

「共通して言えることは、第一にそれぞれの病気の特徴を正しく理解し治療につなげることが大切であり、通院や服薬がきちんと継続されるには家族や地域の支えが必要ということでした。」

また、初発時の対応(治療)がその後の経過を大きく左右するので、なるべく早く医療機関につなげることが大切です。変わった様子がみられたら、すぐに病院へ来ていただいたほうが良いのですが、抵抗がある場合は、町の相談日や

保健師さんへ相談してください。この地域は病院と地域とのネットワークがあるので連携をとり地域で支えていけると良いでしょう。地域の方のつき合いですが、精神病とはいっても、1人の人が持っている病気です。これは血圧で医者にかかっていることと同じです。病気の部分ではなく、病気でない部分で普通につき合うこと、人と人との付き合いを大切にこれからも地域と病院と一緒に支えていけたらと思います。」



固定資産評価替えが実施されます

平成15年は固定資産の評価替えの年です。これにより三年に一度、あなたの固定資産の価格が見直されます。今回は土地・家屋についての評価替えの概略をお知らせします。

固定資産の評価替えとは？

固定資産税は固定資産の有する価値に着目して毎年度課税するものですから、毎年度評価して、これを課税標準として課することが本来妥当であると考えられます。しかし、膨大な量の土地、家屋について毎年度評価を見直すことは、実務上不可能であることや、課税事務の簡素化を図り徴税コストを最小に抑える必要もあることから、土地・家屋については原則として3年間評価額を据え置く制度がとられています。

評価替えの基本的な考え方

- 土地
①田・畑・山林
県で価格調整の終わった基準地価格と平成12年度の基準地価格との上昇率をベースに

標準地間の均衡を考慮し、全体として基準地並の上昇率で価格を算定します。

②宅地
状況が類似している地区ごとに状況類似地区の選定を行い、標準地の設定を行い、地価公示価格、県地価調査価格、不動産鑑定士による鑑定価格を活用することとし、これらの価格の7割程度を固定資産評価額とします。

○家屋
評価替えの年に評価額を再計算し、家屋の異動のない限り、次の評価替え(3年後)まで、その評価額で税額を計算することになります。

3年毎に評価替え



3年間の資産価値の変動を価格に反映させます

評価替えの方法(家屋)

再建築費(※)に建築費の動向に関する各種の指標に基づいて求めた率(今回の評価替えでは木造0.96、非木造0.96)を乗じます。この再建築費に構造・種類別に定められた経過年数(築後年数)に応じた補正率(家屋の古くなった分を補正するもの)等乗じて評価額の再計算をします。
なお、再計算した評価額が前年度価格を上回る場合には前年度価格に据え置きます。(※再建築費とは、評価の時点でもう一度新築するとした場合に掛かる費用をいいます)

川口町内の評価額はどうなるの？

平成15年の評価替えにより川口町内では、駅前を中心に評価額が下落する地域があります。反面、住環境の整備により川岸の宅造地区など上昇した地域もあります。
田・畑・山林については従来通りの見込みで、町全体として約2%程度の下落になる見込みです。
家屋は再建築費の上昇率がマイナスになっています。これは、主に都市部の建築物価の下落が原因となっています。これにより経過年数による減価分と合わせ町全体として約10%程度評価額が下がる見込みです。

固定資産課税台帳の縦覧は4月になりました

平成15年度より縦覧開始が4月になります。縦覧できる内容についても大幅に見直されました。詳しくは2月号でお知らせします。
問い合わせ 役場税務会計室
☎89-4414

1月10日は110番の日 事件事故 緊急ダイヤル110番

事件事故が発生した時、犯人の早期検挙や被害者の救助など、迅速かつ的確な処理が必要となります。こうしたときは110番通報を積極的に利用してください。また、緊急性のない困りごと、相談などは#9110番(警察本部けいさつ相談室)へ電話されるか、最寄りの警察署の相談室にお尋ねください。

110番の通報要領

- 110番通報があった場合は次の順序でお尋ねしますので落ち着いてお話しください。
○何がありましたか(交通事故 故・ドロボウ・けんか等)
○いつですか(何時何分頃)
○どこですか(場所・目標物・建物等)
○犯人は(人相・服装・車のナンバー・逃げた方向)
○あなたは(住所・氏名・電話番号)

地域に密着、

「1、2年生は、生活科で「ともだちいっぱい」「あそびたいすき」「おおきなあれ」「できるよになったよ」の4つの単元を学習します。自分を取り巻く出来事や季節の移り変わり、地域の人々の優しさに触れるさまざまな活動を通して、木沢の良さをたくさん発見してきました。

春のよもぎだんご作り、季節の色染め。数珠玉を育てておはじきをしたり、お手玉を作って遊んだり、植物の栽培をしたり、お年寄りの話を聞いたり…。体験活動を通じた気付きの一つひとつは、木沢の良さの発見と同時に、自分の成長への気付きを促してくれます。



「1、2年生生活科」
「木沢大好き」



4年生は社会科の学習と絡め、木沢の環境を学習しています。木沢で使われる水はどのように送られてくるのか、水を使う工夫は何か、木沢の方々はいろいろな道具やゴミをどのようにしているのかなど、社会科の見学やインタビューで疑問に思ったことを総合的な学習の時間で調べました。たった1人の4年生なので、一つのことを調べるのにとっても時間がかかりましたが、木沢の方々に突撃インタビューやアンケートをして情報を集めました。

3学期は、自分でできるリサイクル活動を中心に学習を進めていきます。

「4学年総合学習」
「木沢の水とリサイクル」

「泳ぐ宝石」と言われる錦鯉は、その昔、木沢でもたくさん育てられていました。また、そば作りもかつては盛んでした。5年生は木沢をより深く知るため、これら二つの活動に取り組んでいます。

鯉を卵から育て大きくなっていく様子を観察したり、選別の仕方を調べて自分の手で錦鯉を選んだりしました。そば作りでは、種まきや刈入れ、そばの実落としまで、みんなから手伝ってもらいながらがんばりました。

3学期は、木沢の人を講師に招き「そば打ち体験会」をする計画があります。



「5学年総合学習」
「木沢の鯉とそば作り」



「6学年総合学習」
「ふねやと木沢の町めぐり」

「木沢にはお年寄りが多いな」「年寄りの生活ってどんなかな」こんな話し合いから、お年寄りに優しい町をテーマに総合的な学習に取り組んできました。

福祉にはあまり関心のなかった子どもたちですが、町主催の介護予防教室に参加したり、「ぬくもり荘」を訪問したりしながら、お年寄りたくさん触れ合ってきました。

福祉について考えながら、お年寄りの生活を知ること、自分自身についても、深く考える機会がもてました。

総合学習の時間です!

木沢小学校

木沢きらきらプラン

「おはようございます。」子どもたちの元気な声で、木沢小学校の一日がスタートします。「あいさつがいいね。」と地域の人にほめられることもしばしば。こんな気持ちの良いあいさつをいつでもできる子どもたちになるように「やる気!元氣!総合的な学習支援事業」では、地域と積極的に関わったり対話したりすることをキーワードに取り組んでいます。

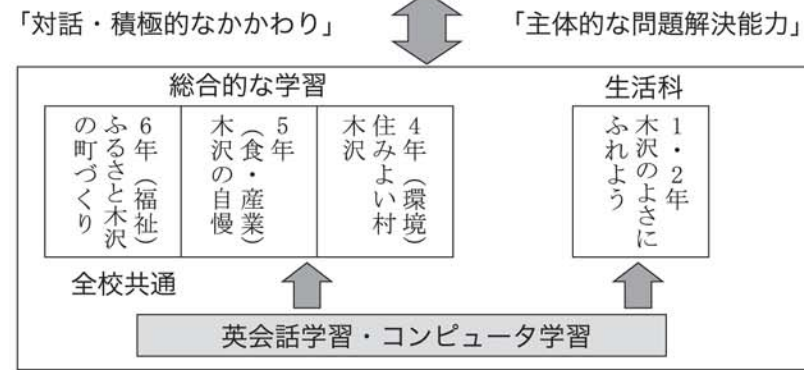
少人数の良さを生かし、個に応じたきめ細かな指導を心がけ、子どもたちがきらきら学ぶ姿を願って活動しています。

4月より始まった新学習指導要領。その特徴の一つである「総合的な学習」は、各学校が創意工夫をして、それまでの教科を超えた学習が期待できる時間です。

広報では1月から3月にかけて、町内各小・中学校の生活科・総合学習の様子を紹介していきます。

今月号は、木沢小学校と川口小学校を紹介します。

重点目標 ~自ら学び、チャレンジする子~



一学期には、パソコンの基本的操作やインターネットの使い方方をみんなで学習しました。

みんなで学んだことをもとに、総合的な学習では、情報を収集し活用する方法を学んでいます。

「総合的な学習」のねらい

総合的な学習の時間では、子どもたちの生きる力を育てるために、国際理解、環境、福祉、健康などについて「自然体験やボランティア活動」「観察・実験など調べ方を身につける学習」「地域の人々の参加による学習」などを通して、子どもたちは自分で課題を

見つけ、考え、判断し、問題を解決していく力を身につけていくことをねらいとしています。

また、学び方やものの考え方を身につけ、問題解決やより深く探る活動に意欲的・創造的に取り組み、そこから自分の生き方を考える力を育むものです。



また、英会話学習では1年生から6年生まで、みんなが英語に親しめるように、英語の歌を歌ったり、簡単なあいさつや物の名前などを学習したりしています。

最初は恥ずかしがっていた子どもたちも、今では楽しく学習しています。

他の教科との関わりは?

他の教科で学んだ知識を「総合的な学習」に活かし、「総合的な学習」で学んだ知識を他の教科で活かす。

この相互性によって、子どもたちの知識や体験は、より広がりを持ち、いろいろな場面で活かされるのです。

川口小学校

川口小学校では、次のような子どもの姿を目指して生活科・総合学習に取り組んでいます。

- 自然の良さを味わうことができる子ども
- 自分で判断し、行動にうつす子ども
- やさしい心で行動する子ども



6年生総合学習「未来に生きる」
～東川口保育園での体験活動
「児童福祉」を学ぶ姿～



【3学年総合学習】 「かわぐちよいとこ、川と人」

3年生は、川での学習や川口町に住む人々とのふれあいを中心に活動しています。自然の大切さや人の心の温かさにつれ、川口町の「良さ」を見つけています。
お年寄りから昔の川の様子を聞きました。今の川の様子と比べる活動では、「水はすべてつながっている」ということに気づき、わたしたちに何ができるかを考えることができました。

【4学年総合学習】 「みんな生きる仲間」



4年生は、信濃川（獅子が島周辺）・アクアランドでの活動を進めてきました。アクアランドとは、雑木林・沼・河原が自然のままに残っている貴重な場所です。水質や生き物の調査を進め、アクアランドマップを作りました。大切にできたのは「くり返し関わる」ことです。自由に活動する中で、子どもなりに「わかった!」「どうしてだろう?」をたくさん見つけられるようになりました。
活動を通してアクアランドが持つ価値に気づくだけでなく、かけがえない自然を大切にし、守っていくという気持ちが高まりました。そして、自分たちができることを実践していくという態度が見られるようになりました。

【5学年総合学習】 「これからの食を見つめて」



1年生は、動物や植物とたつぷり関わり世話をする中で、生き物「いのち」を実感します。大好きなうさぎのために汗を流して小屋を整備したり、えさやりや水かえをがんばったりしています。
自分のできることが増えたり成し遂げた喜びを感じとったりしながら、子どもたちは大きく成長しています。



農業体験を通して、自然の恵みや人々の思いにふれ、自分たちの未来につながる「食」について考えています。
学校田では、すべて手作業で稲を育て、収穫しました。保護者の方に「米作りの先生」になってもらい、収穫の苦労を実感したり、一粒の米の大切さに気付いたりする事ができました。活動の中で、「土、水、気温」がおいしい米になる条件であることに気づき、川口町が米づくりに適した地域であることを再確認することができました。この体験を通して学んだことをまとめ、地域や狛江市の小学校にも発信しました。

【6学年総合学習】 「未来に生きる」



「人に喜んでもらえるってすごくうれしいなと思ったよ!」
2年生は花の栽培・配布活動に取り組み、身近な人々との関わりを広げられました。花を配るときに、最初は恥ずかしがっていた子どもたちも、自分たちの活動に自信を持ち、「なかよしの輪」をどんどん広げていきました。
「ありがとうっていうことが温かくてうれしかったよ」

6年生は「福祉」をテーマに取り組んでいます。
まずは「福祉」についてインターネットや資料で調べました。その活動から、福祉とはお年寄りや体の不自由な方だけのことではないということに気付きました。川口町にあるいろいろな施設で体験活動をしたり、役場の生活福祉課で話を聞いたりしてきました。
調査活動を通して、福祉とは「社会に住む一人一人が大切にされ、安心して生活できるようにする取り組みなのだ」という認識を深めることができました。
今後は福祉と「自分の生き方」を関わらせながら、自分自身や川口町のよりよい未来像を描いていきます。

HOT トピックス

身近な情報をお寄せください！企画商工課 ☎ 89-3112



「みんなの想いをまちづくり・地域づくりに」
地域づくり交流会開催
12月8日、交流体験館「杜のかたらい」において、「みんなが創る地域の夢：あなたの想いを地域づくりに」をテーマに地域づくり交流会が開催されました。

この交流会は、参加者の交流を通じ、互いの情報交換や親睦を深め、これからの地域づくり活動への「弾み」や「きっかけ」また、参加者一人ひとりの「自信」につながればと開催されたもので、集落夢づくり事業に取り組んでいる地区の皆さんをはじめ、町内や各地区で地域づくり活動やコミュニティ活動に取り組んでいる12団体計52名の参加がありました。



三つのテーマで自由に見交換を行う「まちづくりワークショップ」をメインに、手づくりの食を囲みながらの「交流パーティー」、「参加団体の自己紹介・PR」など和やかな雰囲気の中で進められ、参加者からは、「これから自分の会を進めて行くヒントが見つかった」「いろんな人と出会って交流できた」「もっと若い人から参加して欲しい」などさまざまなご意見、ご感想をいただきました。



この交流会を機会に、地域づくりの輪が更に広がっていくといいですね。



100万人までもうすぐ
温泉入場者80万人突破
12月2日、キャンパス川口温泉の入場者数が80万人を突破しました。

2年程前から2週間に1回は来ているという竹内さんは、「川口の温泉は塩分が濃くて肌がツルツルするような気がします。80万人目に当たって今日はラッキーでした。」とにっこり。

11月25日、山吉勝治さん（川口一）から、「町政に役立ててほしい」と金30万円の寄付をいただきました。ありがとうございます。

100万人に到達する日はもうすぐかもしれませんね。

海上保安庁主催「未来に残そう青い海」図画コンクール小学校の部で、細金綾乃さん（田麦山小5年）の作品が、新潟海上保安部長賞に輝きました。



この賞は、新潟海上保安部に応募した44点の作品の中で最優秀に値するという事で、12月3日、新潟海上保安部次長が田麦山小学校に来校し表彰しました。

図画コンクールで入賞

親子でバドミントン大会

親子でスポーツを楽しむ時間を共有してもらおうとバドミントン協会が企画して、12月1日、キャンパス川口体育館において、親子ふれあいバドミントン教室が行われました。

ラケットでシャトルを運ぶゲームなど白熱した展開に笑いと声援で館内は盛り上がりました。

結果は次のとおりです。
2年生 優勝 森山哲也・翼ペア
3年生 優勝 関 雅好・亮太ペア
4年生 優勝 大淵東子・晃ペア
5年生 優勝 小見良一・真里江ペア

雪灯り廻廊 制作ボランティア募集

幻想的なまつりを演出するために、会場付近の雪灯り廻廊を制作するボランティアを町内外から広く募集します。

制作終了後は、メイン会場でみんなでまつりを楽しみながら交流する予定です。

内容：会場付近の雪灯り廻廊制作
雪灯りの灯火

申し込み・問い合わせ
実行委員会事務局（企画商工課）☎ 89-3112
雪灯り部会代表 星野 正美 ☎ 89-3089



「ふるさと市場」出店者募集

町内の団体やサークルが制作した手工芸品や民具、加工品などの販売を行う「ふるさと市場」への出店者を募集します。皆さんの日頃の活動を販売を通じてPRしてみませんか？

内容：地元町民、団体が制作した手工芸品等の販売
販売所の制作

申し込み・問い合わせ
実行委員会事務局（企画商工課）☎ 89-3112
ふるさと市場部会代表 岡村 勝（川口郵便局長）☎ 89-2050



▲ 第5回のポスターが出来上がりました

第5回えちごかわぐち物語03冬

雪洞火ぼたる祭

私たちの町が持っている資源を最大限活用した、全地域が一体となって創りあげる冬の祭典「雪洞火ぼたる祭」の季節がやってきました。第5回目を迎える今年、およそ4万本のキャンドルが町中に灯されます。皆さんの手で幻想的な夜を演出してみませんか。

期日 2月8日(土)～9日(日)

会場 町内全域

メイン会場 キャンパス川口多目的広場

主催 雪洞火ぼたる祭実行委員会

ふるさとの味は健康のもと ⑩

山の幸・川の幸・里の幸
かわぐちのごっつお

にしん大根



前回に引き続き、11月3日に行われた郷土料理コンテストで入賞した料理を紹介します。今回は、優秀賞を受賞した小林恵美子さん(木沢)と小林美知江さん(木沢)合作の「にしん大根」を紹介します。

- 材料(4人分)
- 大根.....2本(2kg)
- にんじん.....2本(500g)
- なますうり.....1個(1kg)
- 身欠きにしん.....適量
- もち米.....5合
- こうじ.....400g
- 塩.....140g

- 作り方
- ①もち米を炊いてこうじを混ぜる。
- ②①をこたつで一晩ねかせる。(あめ色になってこうじ床ができる)
- ③大根・にんじんは乱切り、なますうりは拍子切りにして、塩漬けにし水気をきる。
- ④身欠きにしんは、米のとぎ汁につけて一口大に切る。
- ⑤②、③、④を混ぜて漬ける。

●受賞者からのコメント
にしん大根は正月料理の一品として親しまれてきました。数の子を入れて作る方も多いと思いますが、なますうりを入れてもおいしいですよ。ポイントは③の時に水気をしっかりとること。よく水気をきらないと水っぽくなってしまいます。それと②のこうじ床をつくる時は、熱めのこたつ程度の温度でねかせるとちょうどいいと思いますが、くれぐれも気をつけてください。電気炊飯器でもうまくできると思います。調味料は塩だけなので、具とのバランスを考えてください。具の量に対して4%程度の塩加減がいいと思います。

21世紀は私たちが主役! ⑦

川口町農協で働いています



森山 さゆりさん
(武道窪)

森山さんは高校を卒業後、農協に就職して3年目の21歳。1年目から現在まで管理課に勤務されています。最近ではAコープの方で仕事していることもあるそうなので、見かけたらぜひ声をかけてくださいね。

▼農協でのお仕事は...「管理課では主に伝票整理、購買、電算の仕事をしています。農繁期には1日中、集荷や検査の手伝いをする事もあることあって、おかげで筋力もついでました。最近ではAコープの方で勤務することも多く、お客様と接する機会が増えて嬉しく思います。農協は全体的に明るい職場ですし、尊敬できる上司も多く、とてもやりがいを感じますね。」▼最近夢中になっていることは...「田中から武道窪に家を新築して約1年経ったのですが、自分の部屋の模様替えに最近かなり凝っていますね。100円ショップや雑貨屋を巡って、ミニプラントや小物を買ってきて飾ってみたり...楽しいですよ。」▼最後に今年の抱負を...「高校でじん帯を痛めて以来、スポーツから遠ざかっているの、水泳を始めてみたいなあと考えています。身体を引き締めたいですね。」

皆さんのページです。投稿をお待ちしています!
企画商工課 ☎89-3112

みんなの広場

除雪ボランティア活動開始!

〜今冬も雪おろしに大活躍〜

12月15日、木沢地区において除雪ボランティアの活動が始まりました。近年にない早い雪で、昨年よりも2週間早い出勤となりましたが、ボランティアの参加者は、慣れた手つきで除雪を開始。約1時間ほどで屋根雪をおろしました。1人での除雪は非常に重労働ですが、除雪ボランティアでは5名ほどで1軒の家を担当し除雪しているの、あつという間に屋根の雪はなくなっていました。参加者ですがすがしい汗を流しながら活動していました。



この除雪ボランティア「遊雪隊」は今年で4年目を迎え、参加人数も徐々に増えて現在およそ40名になりました。今年の冬も積雪の多い木沢を中心に5世帯を除雪することになっています。遊雪隊ではボランティア参加者を随時募集しています。屋根に上がれない方でも下雪処理などの作業もありますので、みなさん気軽に参加してみたいかたがぜひ参加してください。参加申込 代表 星野正美 ☎89-3089

元気です!かわぐちっこ ⑥9

大淵 哲也 ちゃん (小高・2歳)
おとうさん 博文さん おかあさん 麗子さん



取材時は、ちょっと風邪ぎみだった哲也くん。普段は外で遊んだり、おじいちゃんと畑に行くのが大好きなんだけど、この日はおうちの中でガマン、ガマン。それでも元気が余っていたのかおうちの中を駆け回っていました。写真はカメラマンのリクエストに答えて、おもちゃの車に乗って元気よくピースしてくれました。哲也くん、ありがとね!

俳句 大内迪子先生選 老人クラブ俳句教室(11月6日)

- 鯉釣れて誰も帰らうとは言はず
- 露寒に癒えし子送る見えぬまで
- さびさびと紅葉映し川暮るる
- 紅葉谷ふりかへりつつ帰りけり
- 赤のまま野菊の道に続きをり
- ひと吹きの風の力よ木の葉舞ふ
- 秋野菜まだ取り入れず雪かぶり
- 八海の初冠雪の朝の景
- 胡桃落つ音とわかりし安堵かな
- 見慣れたる山野絶景雪の朝
- おとなひし銀杏黄葉の蔭の家
- 手踊に農を収めの秋の暮
- 御句碑にひっそり秋草花盛り

耳遠き夫に虫籠近づけて
越後路の冬は一気に来たりけり
息つめて秋の蚊一つ打ちもらす
初雪に婆沙羅となりし庭木かな
季節かな気づけば我も着ぶくれて
山暮れて野は白菊のうすあかり
無器用に編んで干されし唐辛子
魚沼に住み新米の炊けし香に

吉沢まさ子
村山むら女
宮 ヨキ
丸山 好枝
丸山 トシ
鈴木 良仙
星野智恵子
新宮 山紫

●老人クラブ俳句教室 1月7日(火) 末広荘
●公民館句会 2月2日(日) 生涯学習センター
※出句締切 午後1時

短歌

間引菜を洗ふ池面の水冷えて山里の秋深みゆくなり

佐藤 美智